

2024年度版 製品審査 一次審査様式

製品区分	大分類	中分類	小分類	重要度	申請区分
I群	擁壁工	ブロック積擁壁	大型ブロック積	2	製I-擁壁-3

審査項目及び審査基準				根拠 (RPCA審査基準が満足する道路土工関係指針等)	
中項目	小項目		審査基準		
荷重	自重	単位体積重量	無筋コンクリート 実際の単位重量であること。	『道路土工 擁壁工指針』4-2-2 自重	
		裏込め土			
	土圧		『道路土工擁壁工指針』及び『道路PCa工指針』の解表5-7によるため合格とみなす。 直高8.0m以下であること。	『道路土工擁壁工指針』及び『道路PCa工指針』	
	載荷重				
荷重の組合せ					
材料及び設計諸定数	積ブロック		JIS A 5371に適合していること。	JIS A 5371	
	コンクリート	設計基準強度	製品:備考欄参照		
			胴込め:σ _{ck} =18N/mm ² 以上であること。	『道路PCa工指針』	
	裏込め土 土の単位体積重量γ 内部摩擦角φ、土質		『道路土工擁壁工指針』及び『道路PCa工指針』の解表5-7によるため合格とみなす。	『道路土工擁壁工指針』及び『道路PCa工指針』	
	基礎地盤の土質 定数	擁壁底面と地盤との摩擦係数μ	礫質土: q _a = 600(300) 砂質土: q _a = 300(200) 粘性土: q _a = 200(100)	『道路PCa工指針』	
基礎地盤の許容支持力度			『道路土工 擁壁工指針』4-3 土の設計諸定数		
許容応力度	積ブロック	コンクリートの許容曲げ圧縮応力度	JISの場合は合格とみなす。 それ以外は『道路PCa工指針』によること。	『道路土工 擁壁工指針』4-5-2 コンクリートの許容応力度	
		コンクリートの許容せん断応力度			
		鉄筋の許容応力度			
	胴込め、裏込め コンクリート部 (無筋)	コンクリートの許容曲げ圧縮応力度	『道路土工擁壁工指針』及び『道路PCa工指針』の解表5-7によるため合格とみなす。		
		コンクリートの許容曲げ引張応力度			
		コンクリートの許容せん断応力度			
安定性の照査	滑動	安全率	『道路土工擁壁工指針』及び『道路PCa工指針』の解表5-7によるため合格とみなす。	『道路土工 擁壁工指針』5-3-2 直接基礎の擁壁における擁壁自体の安定性の照査	
	転倒	合力の作用位置			
	支持力	許容支持力度	直高5m以上は、「q _a ≧qa」であること。		
部材の安全性の照査	解析方法				
	構造耐力	擁壁本体	曲げ応力度	『道路土工擁壁工指針』及び『道路PCa工指針』の解表5-7によるため擁壁本体の検討は合格とみなす。 積ブロックがJISの場合は5.5-4を除き合格とみなす。	
			せん断応力度		
	積ブロック	曲げ応力度	コンクリート打設時及び施工時の外力に対して構造的に問題がないこと。 JISの場合は合格とみなす。	『道路土工 擁壁工指針』5-4 部材の安全性の照査	
		せん断応力度			
	耐久性	積ブロックのかぶり		かぶりは『入力マニュアル』によること。 JISの場合は合格とみなす。	『道路土工 擁壁工指針』5-6-4 鉄筋のかぶり
場所打ち部のかぶり		場所打ち部分は70mm以上			
構造細目	鉄筋のあき	鉄筋のあきの最小値	粗骨材の最大寸法5/4以上かつ鉄筋径以上であること。	『2017年制定 コンクリート標準示方書(設計編:標準)』9編 プレキャストコンクリートの前提 9.4 鋼材のあき	
	配力鉄筋		主鉄筋の1/6以上であること。	『道路土工 擁壁工指針』5-6-10 配力鉄筋及び圧縮鉄筋	
	鉄筋のフック及び鉄筋の曲げ形状	フック、曲げ内半径	『道路PCa工指針』第2編 コンクリート編 [21]~[23] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目参照 ※鉄筋のフック曲げ形状	『道路橋示方書・同解説(Ⅲコンクリート橋編)平成24年3月』6.6.4 鉄筋のフック及び鉄筋の曲げ形状	
	鉄筋の定着	鉄筋の定着長	主鉄筋の定着はフックによる定着を基本とする。フック以外の定着については鉄筋の必要定着長を確保する。(『道路PCa工指針』第2編 コンクリート編 [21]~[23] 4.5鉄筋の定着長 4.6鉄筋のフック及び曲げ形状 4.7鉄筋の継ぎ手参照)	『道路橋示方書・同解説(Ⅲコンクリート橋編)平成24年3月』6.6.3 鉄筋の定着	
	鉄筋の継手	継手部、継手長	『道路PCa工指針』第2編 コンクリート編 [23]~[25] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目参照 継手が1カ所に集中した場合の重ね継手長は下記以上とする。 L _a = σ _{sa} × φ / 4 τ _{oa}	『道路土工 擁壁工指針』5-6-8 鉄筋の継手	
	最小鉄筋量		部材断面積の0.15%以上であること。	『道路橋示方書・同解説(Ⅲコンクリート橋編)平成24年3月』6.4 最小鋼材量	
	水抜き孔	水抜き孔の有無		擁壁に2~3㎡に1カ所の割合で内径5~10cm程度水抜き孔を設置していること。(見え高さ)	『道路土工 擁壁工指針』5-9-2 表面排水工及び裏込め排水工 (2)裏込め排水工 (6)水抜き孔
		水抜き孔の径、配置状況			

2024年度版 製品審査 一次審査様式

製品区分	大分類	中分類	小分類	重要度	申請区分
I群	擁壁工	ブロック積擁壁	大型ブロック積	2	製I-擁ブ-3

審査項目及び審査基準			根拠 (RPCA審査基準が満足する道路土工関係指針等)	
中項目	小項目	審査基準		
その他の仕様	擁壁の根入れ	根入れDf	基礎上面から50cm以上確保されていること。	『道路土工 擁壁工指針』5-3-2 直接基礎の擁壁における擁壁自体の安定性の照査(2)根入れ深さ
	基礎コンクリート	設計基準強度	JISの場合は合格とみなす。 それ以外は設計・施工要領等に仕様の記述があること。「道路PCa工指針」第4編 擁壁工編 [53] 7.1 PCaブロック積擁壁の特徴と適用範囲及び[55] 7.2 設計方法、[56] 7.2.2 PCaブロック積擁壁の配置上の留意点及び[54]表7.1-1 参照	『道路土工 擁壁工指針』4-4-2 コンクリート
		厚さ		『道路PCa工指針』
	基礎材	使用材料		『道路土工 擁壁工指針』5-11-2 基礎工
		厚さ		『道路PCa工指針』
排水工	排水工の形状	「道路PCa工指針」第4編 擁壁工編 [28] 4.7排水工参照		『道路土工 擁壁工指針』5-9-2 表面排水工及び裏込め排水工
施工	施工マニュアル	施工の手順	施工マニュアル等に記述があること。 「道路PCa工指針」第4編 擁壁工編 [57] 7.3 施工方法及施工上の留意点参照	『道路PCa工指針』
		施工上の留意点		
		施工上の適用条件		
製品の品質	外観	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置	JISの場合は合格とみなす。 それ以外は製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 「道路PCa工指針」第4編 擁壁工編 [57]、第3編 製造編 [20]～[23]第3章 検査参照	『JIS Q 1012』B.1 製品の管理
	形状寸法	検査頻度・方法、測定箇所、形状寸法及び寸法許容差、判定基準、不合格の処置		JIS A 1108 『JIS Q 1012』B.3 製造工程の管理
	コンクリートの圧縮強度	試験頻度・方法、判定基準、不合格の処置		
材料の品質	品質	使用する材料の品質	JISの場合は合格とみなす。 それ以外は製造仕様書に、使用する全材料を対象に、材料の品質毎に定めた項目についての記述があること。 「道路PCa工指針」第4編 擁壁工編[57] 第3編 製造編 [6]～[12] 第2章 道路PCa製品の製造 2.3 材料の受入と貯蔵参照	『JIS Q 1012』B.2 原材料の管理
	受入検査	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置		
	貯蔵	貯蔵の管理方法		